



南葵音楽文庫ミニレクチャー

南葵楽堂開堂記念委嘱作品

E. W. ネイラー 序曲《徳川頼貞》

篠田大基

2019年4月7日（日）11：00

和歌山県立図書館 南葵音楽文庫閲覧室

Naylor, Edward Woodall. *Overture to Raitei Tokugawa: Tokyo*. 39 parts. (収蔵番号 3K4.2/15)

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500
https://www.lib.wakayama-c.ed.jp/nanki/

作曲者エドワード・ウッドル・ネイラー（1867～1934年）は徳川頼貞のケンブリッジ大学での恩師。南葵楽堂の開堂を記念し、頼貞からの委嘱で1918年作曲。しかし同年の南葵楽堂開堂には演奏準備が間に合わず、1920年11月23日、パイプオルガン竣成記念「臨時音楽会」において横枕文四郎指揮、海軍軍楽隊により初演された。南葵音楽文庫には演奏使用パート譜一式が現存。スコアは欠本だが、ケンブリッジ大学エマニュエル・カレッジ図書館所蔵の作曲者自筆スコアのコピーが東京藝術大学附属図書館所蔵。



Edward Woodall Naylor

The Musical Times, Feb. 1, 1908 より

▶第1ヴァイオリン・パート譜
ページのめくり部分に使用感がある。
演奏者による書き入れはほとんどない。



「E. W. ネイラー博士はこの〔南葵楽堂の〕初めての演奏会のために新作の序曲を委嘱されたが、その電報が届いたのは去る〔1918年〕5月のことであった。しかし手稿スコアが日本に届くまでには15週間を要するとされ、したがって、作曲の時間はわずかしか残されていなかった。」

(N. [Anonymous. Naylor?], "A Concert-Hall at Tokyo", *The Musical Times*, vol. 60, no. 912 (Feb. 1, 1919), p. 82.)

「アンダンティーノ〔序奏〕は1918年3月に新たに作曲。ヴィーヴォ〔主部〕は、中間部の終わりの数小節を省略した以外は、1904年2月に書いたヴァイオリンとチェロとピアノのための三重奏曲 二長調の終楽章と同じである。」

(作曲者自筆スコア, Cambridge: Emmanuel College Library, MS 328, 前付.)

序曲《徳川頼貞》の形式分析 ([]付きのアルファベットは吹奏楽版の練習番号)



序曲《徳川頼貞》の再演

和歌山県民文化会館, 2017年12月6日

演奏: 読売日本交響楽団 撮影: 読売新聞社